

発行

博物館だより

富士吉田市歴史民俗博物館

〒403 山梨県富士吉田市上吉田2288-1

☎ 0555-24-2411

・平成5年11月1日



〈自然観察室から富士山を望む〉

新雪にかがやく富士山を中心に、めぐる山なみ・その裾野が紅葉して、今、秋たけなわ、自然のおりなす綾錦が自然観察室からながめられます。

富士吉田市歴史民俗博物館と名称を改め、4月18日に開館して半年が過ぎました。この間、市内はもとより県外からも多くの見学者が訪れ、富士吉田市の歴史をご覧いただいております。施設は展示室や収蔵庫とともに、調査・研究施設等の設備にも心がけ、十分な博物館活動ができるものとなりました。しかし、これからは内容の充実に努め、市民の期待に応えることのできる博物館運営が必要となってきています。幸い、本年度からは事務局長を中心に管理機能を充実させ、また学芸員も配置し、様々な催し物を企画実施することができました。博物館登録も済み、これからも市民に親しまれる博物館をめざして努力を重ねてまいります。

館長 勝俣 誠

博物館施設のご案内

博物館には常設展示室・企画展示室をはじめ、学習室や富士山を一望できる自然観察室などの諸施設があります。

常設展示では、まず富士吉田市の特徴を知っていただくために『富士山の信仰』と『郡内織物』の二つのテーマ展示を設けています。また、原始から現代までの富士吉田市の歩みを紹介する『歴史』と、人々の生活の様子を日常と祭りを交えて示す『民俗』を合わせて、四つの分野で構成しています。

今回は常設展示以外の施設や普段見ることのできない収蔵庫など、博物館施設の紹介をします。

企画展示室

展示は博物館活動の中で重要な柱の一つです。常設展示の他にテーマなどを定めた企画展示は、調査研究の成果を紹介する展示として実施していくものです。当館の企画展示室は、ガラスのウォールケースを設け、重要文化財等の資料も安心して展示ができるようになっています。また、民俗展示との境に可動式の壁を設置し、大規模な企画展示には民俗展示も含めた展示スペースを確保することができます。

講 堂

博物館では各種の講座や学習会、講演会など多彩な催し物を企画・実施していますが、講堂はこのような催し物の際に使用したり、団体見学者の館内ガイダンスや会議室としても利用しています。

学 習 室

学習室は来館者が学習する場として利用できる場所です。ここには博物館に関する書籍や、歴史民俗関係の書籍なども設置してあり、ミニ図書館として調べ物などに活用していただければ幸いです。

ラウンジ

展示を見学して一休みの時にご利用下さい。ウインドウからは一面の松林と附属施設の御師住宅等が一望できます。また、ここで『日本の心富士山』と題したVTRを上映しています。



▲ ラウンジ

自然観察室

自然観察室は2階にあり、ラウンジとともに憩いの場所としてご利用下さい。晴れた日には富士山が一望でき、また屋上からは市内一円を見渡すことができます。

工 作 室

工作室では博物館資料の整理・調査をはじめ実測や写真撮り、簡単な修復などを行う場所です。また企画展等の準備作業もここで行います。室内には写真室（暗室）が設置されていて、現像作業などができます。



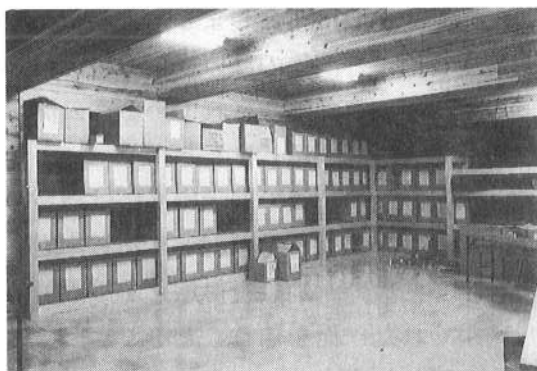
▲ 工 作 室

収 蔵 庫

博物館資料は収蔵庫に保管して後世まで引き継がなければなりません。当館には第1から第5収蔵庫と古文書収蔵庫があり、資料の材質によって分類・収納しています。第1から第3収蔵庫までは主に美術品をはじめ布や紙類・什器、その他温度湿度に左右されやすいものなどをその材質ごとに分類して収め、24時間体制で保存管理しています。各室とも前室を設け、消火設備

も備えています。その他の収蔵庫は農具や機織り用具など比較的大物資料が収蔵できるようレイアウトがされています。

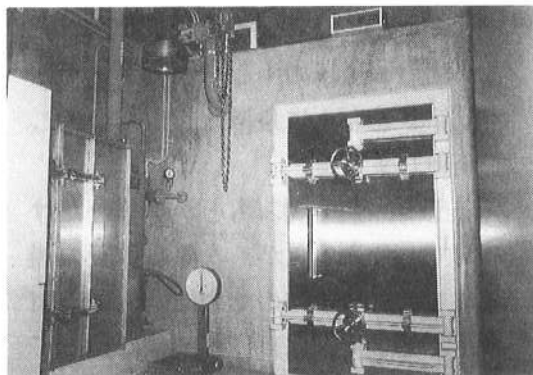
古文書収蔵庫は資料の性格から保存には特に注意が必要とされますが、床壁棚等に全面木材を使用しており、保存には万全を期しています。



▲ 古文書収蔵庫

燻 蒸 室

資料についている害虫などを除去するための施設です。新たに収集してきた資料には害虫が多くいて、せっかくベストな保存状態を保っていても無駄になってしまいます。こうした問題をなくすために、新規収蔵資料はここで薬品による燻蒸作業をして、収蔵庫に収めます。



▲ 燻 蒸 室

博物館事業を報告します

●開館記念特別展

『富士吉田市収蔵美術と増田誠展』

(4月18日～5月30日)

開館を記念して市で収蔵している絵画の中から富士山を題材として描かれた作品を中心に紹介しました。また、富士吉田市と関係の深い故増田誠画伯の絵画を、市内に残されている未公開作品も含めて展示しました。

増田画伯の13点の展示作品には地域の祭りなどの行事を題材とした日本画を中心に扱い、油絵を得意とする画伯のかくれた一面を知ることができたことと思われます。



▲ 増田誠 作『富士山御輿』

●企画展

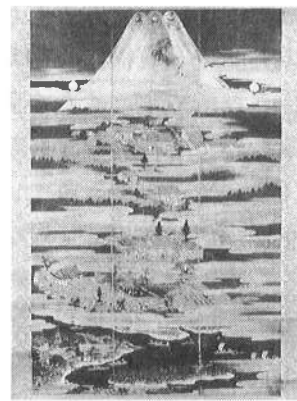
『描かれた富士の信仰世界』

(7月1日～8月29日)

博物館の展示の中心となる『富士山の信仰』をさらに象徴化したものとして企画しました。

富士山は長い間ふもとから拝むだけの山でありましたが、次第に修行の場となりさらに信仰のために登山する山へと変化していき、江戸時代に至っては富士講が盛んとなりました。

今回は現在のようにただ気高く美しいだけの山として認識されている富士ではなく、信仰の山としての富士を、伝統的な絵画を通して探ってみました。人々の富士によせる信仰を考える機会となったことと思います。



▲ 富士曼荼羅図

この企画展開催を記念して8月21日に『富士参詣曼荼羅の世界』と題した講演会を開催しました。講師に信州大学助教授の笹本正治氏を迎え、富士宮の富士山本宮浅間大社所蔵の「参詣曼荼羅図」の描かれた背景などについて解説していただきました。



▲ 企画展記念講演

●博物館講座

『富士道を歩く』を実施

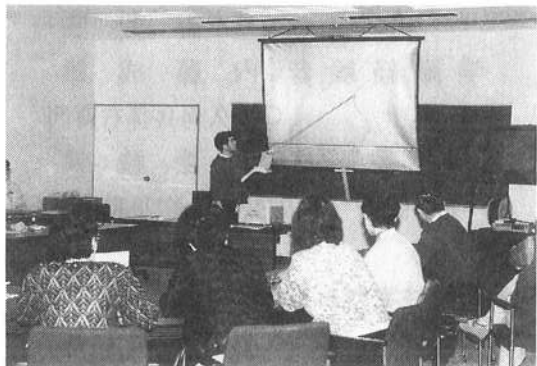
江戸時代、富士山を信仰する富士講は関東一円に広まり、登山者の多くは富士山の北口（吉田口登山道）から山頂を目指しました。北口までは甲州街道を大月で分岐し、都留を通過して富士吉田に至る、ほぼ国道139号に沿った道が利用されました。この道は「富士道」と呼ばれ、道沿いには現在も数多くの富士詣のための信仰施設や史跡が残っています。

今回の講座は、この忘れ去られた歴史の道を実際に歩くことで市民に再認識してもらおうと企画実施したものです。大月駅から富士吉田市の北口浅間神社までの富士道のルートを8月と9月の計4日間に分けて歩いたわけですが、4日もとも天候に恵まれ、参加者は普段何気なく通っていた道に多くの歴史や文化財があることを感じとっていた様子で、とても好評でした。



▲都留市井倉の旧落合橋を渡る

参加者の要望もあつての事後学習会では、地図を使って富士道の道筋の再確認を行い、座談会では色々な意見や要望が出されました。

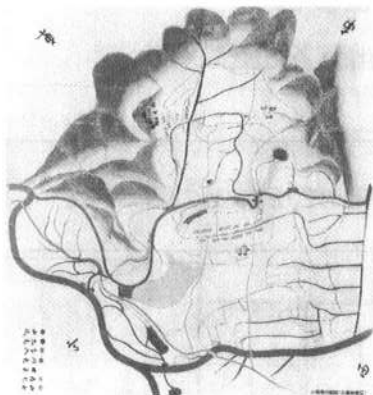


▲熱心に学習する参加者

富士吉田市歴史民俗博物館 企画展

絵図が語る村の歴史

●開催期間 10月15日(金)～12月12日(日)



●企画展『絵図が語る村の歴史』を開催中です。

(10月15日～12月12日)

当市は江戸時代、八ヶ村で構成されていました。村々は富士北麓の厳しい自然環境の中で多くの困難を克服し、独自の文化を築き伝統を継承しながら今日に至っています。その歩みは常設展で紹介していますが、本展ではさらに深く各村の歴史が理解できるよう、絵図をもちいた展示を行いました。江戸時代の絵図を通して、そこに描かれた当時の村の景観を復元しながら八ヶ村の歴史を紹介しています。

お知らせ

●博物館協議会委員委嘱

運営等に関して意見や指導をいただく博物館協議会の委員が選任されましたのでお知らせします。

市議会議員	堀内由郎
〃	滝口信之
〃	土橋舜作
学校教育関係者	中島嘉信
〃	天野文三
社会教育関係者	渡辺伊勢地
〃	星野芳三
学識経験者◎	内藤成雄
〃	○舟久保兵部右衛門
〃	十菱駿武

(◎会長 ○副会長 敬称略)

●御師住宅でお茶会開催

7月11日、御師住宅においてお茶会が開かれました。このような催しなど

に対しての施設利用については、博物館までお気軽にお尋ね下さい。



▲浴衣茶会

●博物館実習より

当館では8月17日から1週間、1名の博物館実習生を受け入れました。開館後の残務処理に追われている中での実習でしたが、学芸員に必要な実務を中心にを行い、また歴史散歩講座にも参加して教育普及活動を体験しました。

博物館利用のご案内

開館時間 午前9:30～午後5:00 (入館は午後4:30まで)

休館日 月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日(日曜・祝日を除く)
年末年始(12月28日～1月3日)

観覧料

大人	300円(240円)	() 内は20名以上の団体料金
小中高生	150円(120円)	

※見学時間は1時間30分位が適当です。

※団体で来館される場合は予めご連絡下さい。

※毎月第2土曜日は小中高校生は無料です。

※市内に住む身障者(4級以上)は観覧料が半額になります。